

## 追悼

### 真下綾子先生を偲ぶ

東海大学 情報理工学部 高雄元晴

2021年3月22日に真下綾子先生の突然の訃報に接してからひと月が過ぎたものの、正直なところ私の心の中ではまだ信じられない気持ちでいる。この気持ちはGCM研究会のメンバーや研究仲間の方々も同じであろうと思う。それほどまでに真下先生の明るく生き生きとした笑顔と声、そして研究に対し精力的に取り組む姿は死という言葉のイメージと対極であったのだと思う。私自身未だ真下先生を偲ぶ気持ちになれないが、同じGCM研究会のメンバーそして研究仲間として一つの区切りをつけるために本稿を書くことを許されたい。

真下先生は2016年に東海大学健康科学部看護学科（現医学部看護学科）に准教授として赴任され、その翌年に亀岡京子教授（政治経済学部）の紹介でGCM研究会のメンバーとなられるとともに、入会早々第14回大会を真下先生はコーディネートされた。本大会は東海大学伊勢原校舎の教室および病院最上階のレストランが会場であったが、真下先生の周到な準備、そして明るい笑顔と楽しいお話でいつにも増して和気藹々とした雰囲気の中、大いに会が盛り上がったのが思い出深い。

この2年ほどは、バーチャルリアリティ技術の高齢者の看護・福祉分野への応用を目指した研究プロジェクトを私を含む数名の学内の研究仲間とともに手がけてこられた。この研究プロジェクトは最初GCM研究会の中で議論され実現したものである。真下先生はプロジェクトリーダーとして研究仲間を明るい笑顔で常に励ます一方、学内の競争的研究資金の獲得など精力的に研究に取り組んでこられた。

私が真下先生と最後にお会いし話をしたのは、2021年1月29日（金）の午後に持ったオンライン会議であった。前年の暮れに受けた手術の経過が思わしくなくご自宅で療養しているとおっしゃっておられた。しかし研究に対する情熱は変わらず、研究プロジェクトに関わる研究成果報告に向けた総括そして今後の研究の方向性について熱心に議論されていた。この姿からこれが最後のお別れになると想像することさえできなかった。ただ議論の中で研究プロジェクトに関わる年度研究総括を大変急いておられたのが気になっていたのも事実である。今にして思えば研究仲間いらぬ心配をかけまいと明言しないものの医療人としてご自身の残された命を自覚しておられたのかもしれない。だからこそ体調がすぐれない中でも強い責任感で自らの責務を完遂させようと急がれていたのだと今となって思う。

GCM研究会のメンバーや研究仲間たちが真下先生のご逝去を心の中で受け入れることができるようになるのはまだ先のことだと思う。今は真下先生が情熱を注がれたGCM研究会の活動、そして研究プロジェクトをより大きく育てていきたいと思う。きっとそこで私たちは真下先生の笑顔を見そして明るい声を聞き続けられるだろう。